



今月はここ数年で大学の入試問題に採用された本を特集します。司書室横に配架しています。

『機械カニバリズム 人間なき後の人類学へ』
久保明教 著 007.3/K (神戸大学 2025年度出題)

「カニバリズム(食人)」を「他人の目から自分をとらえ、自分を他者として作り上げる行為」とする解釈にのっとり、急速にAIが普及する現在と未来の人間のあり方を考える一冊です。

第1章「現在のなかの未来」から出題されました。

『数学する身体』 森田真生 著 410.4/モ
(京都大学 2023年度出題)

在野の若き数学者である著者のエッセイです。数学者の施策の歩みを振り返りながら、数学の楽しさを見つけていく一冊です。

第四章「零の場所 出離の道」から出題されました。

『言葉に出会う現在』 宮野真生子 著 121.6/M
(関西学院大学 2025年度出題)

2019年に42歳で早世した哲学者の遺稿で構成された一冊です。

第八章『「いき」な印象とは何かー「いき」をめぐる知と型の問題』から出題されました。

『ブラームス・ヴァリエーション』
新保祐司 著 726.34/B
(大阪公立大学 2024年度出題)

コロナ禍の中、毎日ブラームスを聞き、その曲から頭に浮かんだ文章より着想した、社会評論です。

第1部「ブラームス・ヴァリエーション 第1主題「僕はただもののあわれへ浸ることのいよ深さを希求するばかりだ」(中原中也「日記」1934年27歳)第一の変奏「物のあはれ」のブラームス」から出題されました。

『夕暮れに夜明けの歌を 文学を探しにロシアに行く』
奈倉有里 著 293.8/N (京都大学 2024年度出題)

高校卒業後、ロシアの大学に留学し日本人として初の卒業生となった著者の留学体験記です。日本の隣にありながら遠いロシアの実情が垣間見える一冊です。

「1 未知なる恍惚」から出題されました。

『ゴットハルト鉄道』 多和田葉子 著 913.6/タ
(大阪大学 2023年度出題)

日本語、ドイツ語両方で文筆活動を続け、両国で評価の高い著者による3つの中短編作品集です。

トンネルばかりの鉄道に乗った体験を基にした表題作「ゴットハルト鉄道」から出題されました。

『新世紀ゾンビ論
ゾンビとは、あなたであり、私である』
藤田直哉 著 361.5/F (北海道大学 2024年度出題)

「現在はゾンビの時代」という著者によるユニークなサブカルチャー論であり、社会提案をする一冊です。

第7章「ポスト情報化社会の体とは？」から出題されました。

『ロゴスと巻貝』 小津夜景 著 914.6/O
(京都大学 2025年度出題)

2000年以来フランス在住の俳人による随筆集です。全40篇の随筆すべてにほかの本からの引用があるのが特徴です。

「戦争と平和がもたらすもの」から出題されました。



今月の新着から

■1 哲学

- 『あらわれを哲学する：存在から政治まで』
荒畑靖宏，吉川孝編著 104/A(北海道大学 2025 年度出題)
- 『観光客の哲学』東浩紀著 104/A(大阪大学 2021 年度出題)
- 『分析哲学これからとこれまで』 飯田隆著
116.3/I(神戸大学 2022 年度出題)
- 『3STEP シリーズ 4 宗教学』
伊原木大祐，竹内綱史，古荘匡義編
161/I(大阪公立大学 2024 年度出題)

■2 歴史

- 『歴史学の作法』池上俊一著
201/I(同志社大学 2024 年度出題)

■3 社会科学

- 『歴史と理性と憲法と』 長谷部恭男著
323.04/H(北海道大学 2025 年度出題)
- 『フェミニズムの政治学：ケアの倫理をグローバル社会へ』岡野八代著 311.1/0(大阪大学 2022 年度出題)
- 『法と社会科学をつなぐ』 飯田高著
321.3/I(大阪大学 2022 年度出題)
- 『ておくれの現代社会論：〇〇(マルマル)と□□(カクカク)ロジー』 中島啓勝著
304/N(神戸大学 2025 年度出題)
- 『社会学の知 33』大澤真幸編
361.04/0(神戸大学 2023 年度出題)
- 『死刑制度と刑罰理論：死刑はなぜ問題なのか』
井田良著 326.41/I(大阪公立大学 2023 年度出題)
- 『地域・都市の社会学』井庭崇，井庭研究室著
361.78/H(同志社大学 2024 年度出題)
- 『くらしのアナキズム』松村圭一郎著
309.7/M(同志社大学 2023 年度出題)
- 『たぐい Vol.1 喰うこと、喰われること』
奥野克巳，シンジルト，近藤社秋編
389.05/T(関西学院大学 2024 年度出題)

■4 自然科学・医学

- 『働く患者』中井久夫著 493.7/N(京都大学 2025 年度出題)
- 『ネガティブ・ケイパビリティ：答えの出ない事態に耐える力』 帚木蓬生著
493.7/H(大阪大学 2021 年度出題)

- 『認知症とともにあたりまえに生きていく』
矢吹知之，丹野智文，石原哲郎編著
493.75/N(大阪公立大学 2023 年度出題)

■7 芸術

- 『視覚の生命力』柏木博著
701.1/K(共通テスト 2023 年度出題)
- 『ドーピングの哲学：タブー視からの脱却』
ジャン=ノエル・ミサ，パスカル・ヌーヴェル編
780.19/N(神戸大学 2023 年度出題)
- 『舞台のかすみ晴れるころ』
有松遼一著 773.28/A(大阪公立大学 2023 年度出題)

■9 文学

- 『漱石深読』小森陽一著
910.26/N(北海道大学 2022 年度出題)
- 『森鷗外「翻訳」という生き方』長島要一著
910.26/M(関西学院大学 2023 年度出題)

文庫・新書

- 『東京百年物語：一九四一～一九六七』
ロバート キャンベル，十重田裕一，宗像和重編
918.6/キ/3(共通テスト 2023 年度出題)
- 『江戸の妖怪革命』香川雅信著
388.1/カ(共通テスト 2021 年度出題)
- 『日本の伝統』岡本太郎著
702.1/オ(京都大学 2022 年度出題)
- 『光と色彩の科学：発色の原理から色の見える仕組みまで』齋藤勝裕著 425/サ(大阪大学 2024 年度出題)
- 『時間の比較社会学』真木悠介著
361/マ(神戸大学 2025 年度出題)
- 『バイアスとは何か』藤田政博著
141.51/フ(神戸大学 2020 年度出題)
- 『ホモ・ルーデンス：文化のもつ遊びの要素についてのある定義づけの試み』ヨハン・ホイジンガ著
209/ホ(奈良女子大学 2025 年度出題)
- 『嫉妬論：民主社会に渦巻く情念を解剖する』
山本圭著 311.04/ヤ(同志社大学 2025 年度出題)
- 『可能性としての戦後以後』加藤典洋著
304/カ(関西大学 2024 年度出題)